

# 2-9

## 退院された利用者の機能回復への試みと経過

意識改革

個別ケア

ようごろうじん ほーむ かいせいえん  
養護老人ホーム 偕生園

えんごか しえんいん こぬまけいこ  
援護課 支援員 小沼桂子

えんごか しえんいん もりた まさみ  
援護課 支援員 森田 将史

東京都昭島市田中町 2-25-3

TEL 042-541-1236

FAX 042-546-8284

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要 10p

社会福祉法人同胞互助会が母体である偕生園は昭和34年3月に昭島市役所より徒歩五分の場所に、定員50名の施設として開設されました。現在、定員は140名で、サービス内容としては主に利用者の日常生活相談・支援を行っています。

### 〈取り組んだ課題〉

- ・身体機能が低下した利用者への対応
- ・養護での排泄ケアのあり方について
- ・日常生活内でのリハビリの支援・実施。

### 〈具体的な取り組み〉

対象者 Eさん

車椅子・終日オムツ対応という状態で退院してくる。

- ・排泄ケアの再検討

本人の希望を聞きながら、終日平オムツ使用から日中紙パンツ+パット、ポータブルトイレ利用へ徐々に変更。

- ・PTとの連携

PT評価を基に、日常生活内で出来るリハビリを全職員間で周知し、継続。

- ・職員会議内での討議

オムツ使用について

どんな時に使うか？

どうして使うか？

いつまで使うか？等を明確化

### 〈活動の成果と評価〉

- ・職員が連携して、PT指導の「日常的リハビリ」を行うことにより、目に見える成果があった。ポータブルトイレを使用することが出来るようになった。
- ・安易な使用法から「どうして使用するか」理由のある使用法へと職員間でオムツ使用に対する意識の変化が見られた。
- ・利用者の希望を尊重しながらのケアが展開できた。
- ・利用者が望む方法を支援することで、利用者に自身を持たせる事が出来た。
- ・「気づき」が遅ければ、利用者のレベルアップも遅れることになるということを改めて実感した。

### 〈今後の課題〉

利用者の観察・気づきの習慣化  
排泄ケアにおけるモニタリングの実施・継続  
PT・医師との連携